

* 日経、3週前終値まであと157円。*

★米国株反発で、日経平均5日線奪回。

週明け、米国株市場が反発したことで、東京市場も続伸。

前場早い段階で5日線を奪回。

その後28376円、285円高まで上昇。ここがピークとなりました。

後場は総じて伸び悩み。

70円前後の狭いレンジでの持ち合いに入りました。

最終的には日経平均終値、28362円。271円高。

グローベックス市場のダウ工業株先物は当初トントンくらいだったところから、100ドル高へと前場段階で気配を切り上げていたことから、東京市場も上げ幅拡大となっていたようです。

東京終了時点では、ダウ先物が152ドル高。

アジア市場は総じて+1.5-1.8%と大きく上昇しています。むしろ日経平均の上昇率が、それにはかなり及ばず、半分ていどです。

日米市場ともに需給の根本的な良さが、相場を支えていることは疑いないところです。

さて、決算・ガイダンス発表たけなわです。

この材料豊かな環境がピークとなるのが、アメリカでは今週、日本では来週ということになります。

この材料が枯渇した後に、どういうことになるかということです。

当レポートで仮想運用しているモデルBは、ドテン反対売買の基準である3週前の終値28519円まで残り157円になってきました。

思った以上にはやくも「のりしろ」が縮小してしまいました。

週後半になりますが、モデルAのヘッジ解除、モデルBのドテン反対売買ということも、一応視野に入れて置く必要がでてきてしまいました。

★物色動向。

トヨタ自動車(7203)が来週決算発表で、これが今般の決算発表のピークということになります。

悪くはないのでしょうか。NOK(7240)やイーグル工業(6486)などメカニカルシールが良いわけですから、期待ハズレということはないと思いますが、要するにそこで相場の手がかりが無くなっていくということがポイントです。

本日は、デンソー(6902)が決算発表で上昇。豊田自動織機(6201)は上場来高値更新。

現状、決算発表が進捗している中での物色を見てみましょう。

前場後半で日経平均が上げ幅拡大となっていた大きな貢献役となったのは、この自動車

系の銘柄であったように思います。

セクター別の上昇率上位は、トップが非鉄、続いて輸送用機器、鉄鋼など、景気敏感系が目立ちました。

医薬品が売られているセクターの筆頭が医薬品でした。

(決算や見通しよくても、売られるケース)

全体に幅広く買われたイメージです。

決算が良くても、売られてしまうケースが散見されています。

ディフェンシブでは LITALICO (6187) などは典型でしょう。一時は二桁の%で急落まで発展しましたが、あまりといえばあまりの出尽くし反落です。

シクリカル(景気敏感)では、先日の TDK (6762) がそうでしょう。売上の上方修正をしていたわけですが、2月1日に一気に50日線まで売られたのは、そのいい例でしょう。本日は反発ですが、25日線突破には至っていません。

ここまでネガティブな反応(第一次反応ですが)に近いものとして、半導体の株価の鈍さが気になります。DRAM 価格が大変な上昇をしているという報道があっても、なかなかそれが半導体企業の収益に直接寄与するわけではないということから、この好材料にも反応薄です。

株価は上がっているのですが、その勢いがやはりかなり以前のようなものではありません。

レーザーテック(6920)も21年6月期業績予想の修正をしており、営業利益は170億円から200億円に上方修正でした。見直しの流れにはすぐならないようで、第一次反応としては、売られてしまいました。

こういったところが、第二次反応できちんと上昇トレンドを形成してきてくれればよいわけですね。

(材料性)

今週一杯見ていると、それがどういうことになるか、次第にはっきりしてくるのではないのでしょうか。

材料ベースの動きでは、タカラバイオ(4974)のように、PCR検査数10倍を目指すという話から、急伸しているようなものが代表的なところでしょう。

材料が未だに生きているのは、たとえばニッポン高度紙(3891)でしょうか。

セパレーターの手前ですが、PEGを計算すると、0.19倍ですから、とんでもなく「割安」ということになります。PEGを逆算すると、ターゲット株価は4938円と算出できますが、史上高値は3675円でしたから、少なくとも史上高値はとんでもなくおかしくないという机上の計算になります。

が、すでに昨年9月中間の1220円から、直近高値2992円まで株価は2.4倍になっているわけですね。それでもまだリチウムイオン電池関連の材料性が生きているのかと、驚くばかり

りです。

この材料性がどこまで神通力を維持できるか興味深いところです。

(景気敏感系全般)

業種のかたまりで、上昇の強さを見せたのは、ファナック(6594)筆頭にしている機械セクターです。オークマ(6103)、ツガミ(6101)などもそうです。

とくに、このところ動画でもお話ししましたが、機械の中でもとりわけミシンが元気です。JUKI(6440)、ペガサス(6262)、蛇の目(6445)など。ブラザー(6448)は揉み合いです。機械が強いということは、やはり後々の業績相場を想定させるものがあります。

これまでのエレクトロニクス(半導体など)一辺倒から、物色が景気敏感株広範に及んでいる傾向はたしかに見られます。ちなみに、エレクトロニクスではソニー(6758)が明日決算発表で、本日は期待感からかかなり上昇しています。

最近、商品市況で銀先物が大きく上昇してきていることは朝刊で述べましたが、これも無縁ではありません。

そういう意味では、非鉄も確かに非常に個別銘柄の強さが目立っていました。

本日もセクター上昇率では筆頭です。

大手では三菱マテリアル(5711)、そして業種としては鉄鋼に入りますが大同特殊鋼(5471)が高値更新という勢いを見せています。

★ドル堅調の背景。

このところドル円が、105円につっかけのような堅調さになっています。

1月6日に102.593円のドルの安値から上がってきているわけです。

この背景として言われているのは、とくに先週の「ミーム株(ヘッジファンド空売り銘柄に、個人投資家集団が買い攻撃をし、ヘッジファンドが追証補填のため換金を強いられた銘柄群)」騒動で、ドル需要が増すのではないか、という短期的な動きだという話です。

確かにそれはあったのかもしれませんが。

ただ、よりファンダメンタルズから見ると、やはり米10年国債利回りの上昇を警戒する動きなのではないか、という見方も根強いわけです。

需給的には2月15日には米国債の利払いが行われるので、そこまでドル需要が大きいのではないかという見方も成り立ちます。

3月の日本の企業の通期本決算をひかえて、基本的には円の本国回帰(円買い)が強まる時期ですから、円高にブレるとすれば、2月15日以降に出てくるかも知れません。

★物色動向。

★テキサス、連邦政府に対する提訴を全行政機関に命令。

独立性の高いテキサス州は、バイデン政権による「グリーンエネルギー包括法案」に対して徹底的に戦うと声明。

アボット州知事は、**全行政機関に対して、連邦政府を告訴するように行政命令**を下しました。

全面戦争です。

これに対し、グリーンエネルギー専門のケリー長官（オバマ政権の国務長官を務めたことがある）は「バイデン政権は、石油化学・石炭産業に携わる鉱夫たちに、ソーラーパネル製造工場など、よりよい環境の職場を与えたいのだ」と弁明。

共和党上院テッド・クルーズ議員は、「門外漢が勝手に机上の空論を言っているだけだ」と切り捨てました。

わたしは、基本的に地球温暖化・気候変動の問題について、CO2 が原因だとする見解に疑問を抱いています。

この種のリベラルの論議は、常に彼らの主張に都合のよい、地球の温度が恒常的な上昇をしており、将来このままでは破滅的な高温になるようにみえるデータを用います。

が、一方で過去の歴史を振り返ると、奈良・平安・鎌倉期には、断続的に高温時代が発生しており、現在となんら変わりません。

当時、CO2 が問題だったと言うのは、暴論です。

CO2 があろうがなかろうが、地球は温暖期と寒冷期が繰り返されているという事実に対して、彼らの議論は説得力を持ちません。

これは、海洋酸素同位体ステージで見ても同じです。科学的に産業革命以来化石燃料によって CO2 が原因で地球が温暖化しており、将来大変なことになるというのは、まったく非現実的な妄想だと思っています。平安時代に、CO2 が大量に排出されたとでもいうのでしょうか。

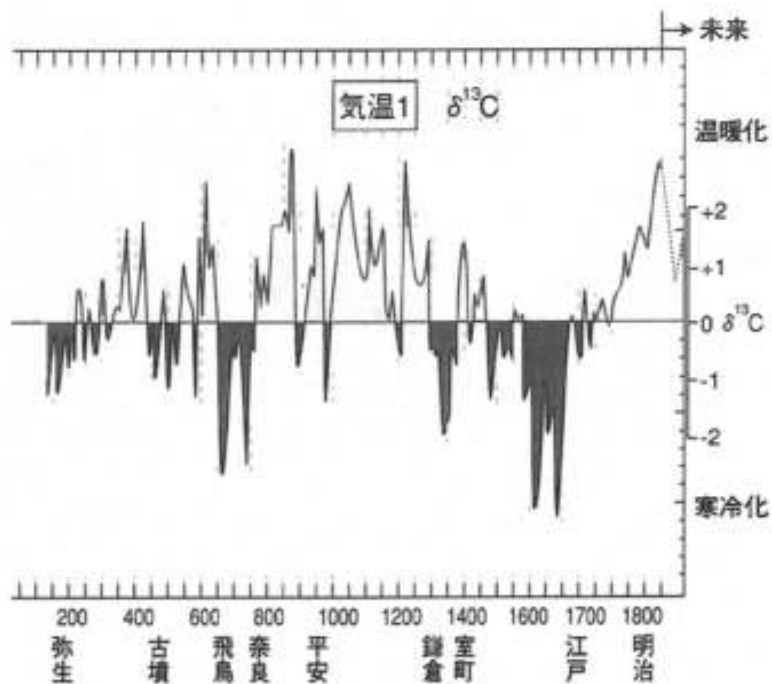
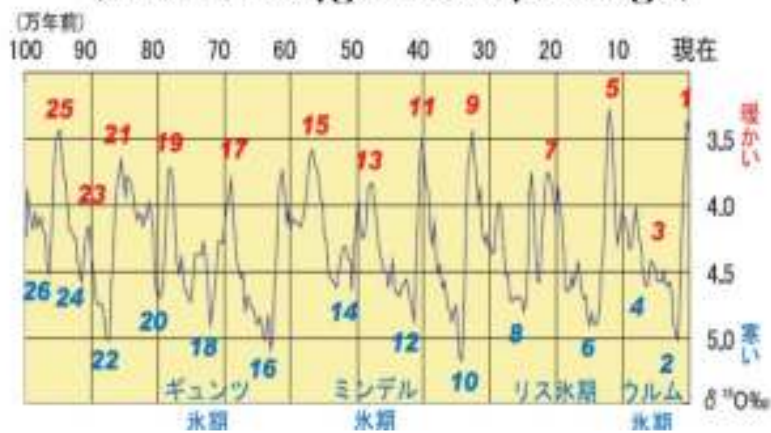


図4 弥生時代から明治時代までのおよそ2000年間の気温変化

海洋酸素同位体ステージ (Marine Oxygen Isotope Stage)



わたしも専門家ではありませんから、もし脱炭素がそれほど重要で、地球が歴史上かつてない温暖期に突入していき、大変なことになるといえるのであれば、彼らに都合のよい計測値のグラフではなく、このようにだれでも納得できる計測値グラフを示してほしいものです。

単に、彼らはこうしたカタストロフィで世論を恐れさせ、動かし、その一方で自分たちが利益を挙げることができる産業に、金融資産や投資を集中させようとする、それこそ「陰謀論」のようにしか思えないのです。

わたしは、香港のような東京の面積の半分しかない土地に、全人口 60 億人を詰め込むこと

ができるくらい、人類などというものがちっぽけな存在だと思っています。
人類が、地球や天体に影響を及ぼすと思うこと自体が、傲慢にしか思えません。

★戦略方針～ポジション管理：

【仮想運用モデル A（個別主体、指数連動 ETF も対応）】

昨日、動画でリストアップした品定めした銘柄群には、あまり動意がありません。
やはり基本的に銘柄入れ替えを、今行くとすれば、決算発表が先行して進捗している東証一部銘柄が妥当なのでしょう。

当レポートで気にしているのは、「戻り一巡」というものが出てくるかという点です。

仮に、戻り一巡で揉み合い、ないし失速となっていくネガティブシナリオは回避、むしろ相場が上放れするという場合には、なにを基準に 1552 の掛け捨て保険を処分売りするかというと、後述するモデル B と同じで、日経平均が 3 週前の 28519 円を突破するときだと考えています。

それまでは、1552 はホールド。おそらくそのときには、米 VIX 指数は 30%台から滑落して、200 日線割れをきたすような動きになっているかもしれません。

【仮想運用モデル B（指数連動 ETF）～裁量無し、可能な限りロジック通り機械的判断】

引き続き 1357 のホールドのままですから、本日は逆風でした。

しかしドテン反対売買の基準は、相変わらず 3 週前の終値 28519 円です。

すでに 6 週線を突破していますから、残るはこの 3 週前の終値だけです。

そう簡単にはひっくり返らないだろうとタカをくくっていたのですが、気がつけばすでに日経平均現物は 28362 円です。157 円と大して差がなくなってきているわけです。

意外に、ここで相場が上放れていくというシナリオに発展した場合、再び 1570 に入れ替えることも考えなければならないかもしれません。

以上